令和２年度岐阜県職業能力開発施設運営改革検討会
第２回木工芸術スクール部会　議事要旨

１　開催日時及び場所
　令和３年２月１７日（水）１３時３０分～１５時００分
　木工芸術スクール（校長室）及びオンライン

２　出席者
　野尻修二座長、井端清秀委員、藤原広行委員、浦西正幸委員、
　片岡紀子委員、渡辺浩和委員、岩田昌弘委員、坂本則幸委員

３　事務局
【商工労働部】
　労働雇用課長（挨拶のみ）、課長補佐兼人材育成係長
【木工芸術スクール】
　校長、訓練課長、管理調整係長、主任技師

４　会議の概要
・あいさつ
・資料説明
・意見交換

５　主な意見
【入校生確保について】
○入校生確保について、従来のようにホームページやパンフレットの告知だけでは難しくなってきており、若者の情報収集の主流であるＳＮＳを使った情報発信を強化することが重要である。
○高校との連携事業などにより、木工に興味のある生徒がスクールと交流できるよう取り組んで応募者を確保してほしい。
○今年度定員割れし、来年度もさらに減るということであり、しっかりと原因を究明する必要がある。
○高校生をターゲットに募集活動をしていくことは、今後は、必ず大学に行くという考えが薄れていく中でとても良いこと。

○応募者を増やすにあたって、高校との連携は非常に重要になる。高校卒業時にはまだ技術はなくても、何か「夢」を持っている生徒をターゲットに、木工芸術スクールでは高校では学べないこんなレベルのことが学べるという「レベルの違い」を見せてあげることが必要である。

○木工芸術スクールが、木材加工などの授業がある高校の指定校のような位置付けになれば、「夢」を持つ生徒が木工の世界へ進む中継地となり、高校側も毎年生徒を送ってくれて、推薦で入ってくる生徒たちで一定数の枠が埋まるようになるのではないかと思う。

○ホームページに具体的な就職先や活躍している修了生の記事を掲載してここで学んだ後の道筋を見せてあげると良い。

○地元の中で大きな存在となることは必要だが、長い目で見れば、外向きに発信していくことも同じくらい重要なことである。昔は独立志向が強かったが、現在は、勤めながら好きなものを作るというスタイルも増えてきている。いずれにせよ、昔も今も変わらず好きなものをコツコツ作る人はいるので、そういう人に向けて、手加工とか手工具の魅力やものづくりの手応えを感じるような部分をＳＮＳで発信すべき。

○外国から交換留学生を招くと生徒と化学反応が生じてスクールが活性化し、飛騨の魅力が世界に伝わって面白い。

○飛騨地区にはいくつか木工を学べるところがあって、それぞれが特色を持って木工を教えているが、環境に合わずに木工を辞めたり飛騨を去る人が一定数いて非常に残念に思う。こういう一度挫折した人が別の場所で木工を続けられるような仕組みがあると地元企業としてはうれしい。

○入学試験について、高卒以上の学歴があれば作文と面接だけにして、その人の木工への想いや熱意を反映出来るような試験があっても良い。

【修了生の就職支援について】

○コロナ禍であっても人材不足の企業は多いが、そういう企業の多くは求人を出さない。しかし、中には素晴らしい企業があるので、そのような企業を見つけ出して、木工芸術スクールに求人を出してもらい、個別に生徒とマッチングしていく取り組みが必要である。